

I. 研究背景と目的

学校図書館をめぐる近年の状況は、学校教育法改正、子どもの「読む・調べる」習慣の確立に向けた実践研究事業開始、新学習指導要領公示等、読書活動推進に向けた教育行政の動きが活発である。また、PISA型読解力の課題、文字活字文化振興法等、読解力の育成、言語力の涵養に対する社会的要請もみられる。

学校における学校図書館活用の現状は、上記のような活発な取り組みにより、読書センターとしての利用は進んでいるが、学習情報センターとしての利用は遅れている¹⁾。この現状を踏まえ、これからの学校図書館は、教員による授業の改善と充実を支援し、計画的な学校図書館活用授業を拡大し、学習利用の実質化を進めていくことが求められる。そのためには、学校図書館が整備（人・資料・施設の充実）されている必要がある。

しかし、学校図書館が整備されている学校においても、学校図書館を授業で活用する頻度の高い教員（活用度の高い教員）と活用する頻度の低い教員（活用度の低い教員）が存在する。学校図書館活用授業が行われるかどうかは、学校図書館活用に対する教員の意識と利用の実態が鍵であると考えられる。

そこで本研究では、教員の学校図書館活用に対する意識と利用の実態を詳細に調べ、

活用度の高い教員と低い教員の意識と利用の実態の関係を明らかにし、活用度の高い教員はなぜ授業で活用する頻度が高いのか、活動度の低い教員はなぜ授業で活用する頻度が低いのか、その要因を解明し、その改善策を提言することを目的とする。

II. 研究方法

本研究では、学校図書館の整備が充実されており、かつ、活用の努力をしている学校の教員を対象に、学校図書館に対する意識と利用の実態について質問紙調査を行い、さらに、より詳しく探るために面接調査を行った。調査は、2009年5月から9月にかけて実施した。

A. 質問紙調査

1. 調査対象

調査対象は、東京都荒川区、新宿区、武蔵野市と千葉県市川市の8小学校で授業を担当する教員160人とした。

2. 回収状況

調査対象教員160人に対し145件回収（回収率91%）したが、校長、栄養士等授業を担当していない対象外の教員が7件含まれていたためそれらは無効とし、138件を有効とした（有効回収率86%）。活用度（高い・低い）で比較する場合は、学校図書館活用授業時間数を無記入であった14件は外し124件が分析対象となった。活用度の高い教員は59件（43%）、活用度の低い教員は65件（47%）となった。

3. 調査項目と分析方法

調査項目は、「教員の意識と利用の実態」に関する質問として、具体的には、読書活動の意義と学校図書館の目的・役割・機能について4問、学校図書館を活用した授業を行おうとする意識（理由・目的・工夫）について4問、学校図書館利用の実態について4問である。「教員の属性」に関する質問は2問の合計15問（選択技法12問、4段階評価法2問、自由回答1問）である²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾。

年間学校図書館活用授業時間数で月に1～2回程度利用とする15授業時間を基に、回答者を活用度の高い教員と低い教員に分類し、活用度（高い・低い）別の回答率を算出し、各質問項目とのクロス集計を行い、その結果に対してカイ2乗検定を行った。

B. 面接調査

1. 調査対象と方法

面接調査は、同8校の17人の教員（各校2～3人）に、15分～60分の半構造化インタビューを実施した。

2. 調査項目と分析方法

調査項目は、学校図書館活用授業を行おうとする意識（理由・目的・工夫）に関する6問と、学校図書館活用授業の今後の課題に関する1問の合計7問である。

これらの7問のインタビュー結果を書き起こし、その発言内容を筆者が設定した「学校図書館活用授業のきっかけ」（状況）、「学校図書館活用授業での工夫・利点」「学校図書館活用授業をしにくい又はしない理由」（行為）、「学校図書館活用授業で得られた

もの」「学校図書館活用授業での課題」（帰結）の5つのカテゴリーに分け、事例コード・マトリックス⁶⁾（列に個々の事例、行にカテゴリー）を作り、次に、5つのカテゴリーに分けた発言を各カテゴリーの中でセグメント化し、全体で81のサブカテゴリーに分け分析した。

III. 調査結果

A. 質問紙調査

読書活動の意義と学校図書館の目的・役割・機能に関しては、両教員間でほとんど有意な差は見られなかったが、教員の意識と利用の実態に関して、効果的学習活動の展開を心がける、年間授業計画あり、実践例を参考にする等（第1表）、校務分掌で図書館担当経験あり（第2表）、教員養成時の図書館学学習経験あり（第3表）等15項目に有意な差があった。

第1表 調べる学習での学校図書館利用の工夫

(n=124) (複数回答)

調べる学習での工夫	活用度の高い教員 (59人)		活用度の低い教員 (65人)		p値
	人	%	人	%	
図書館担当者に相談する	39	66	31	48	0.039*
児童に課題を出す	36	61	29	45	0.068
効果的学習活動展開を心がける	30	51	12	18	0.000*
年間授業計画あり	28	47	11	17	0.000*
実践例を参考	24	41	9	14	0.001

にする	人	%	人	%	*
児童の成果物を参考にする	13人	22%	6人	9%	0.048*
教員研修あり	5人	8%	2人	3%	0.193
該当なし	2人	3%	10人	15%	0.024*

* : p<0.05

第2表 校務分掌での図書館係担当経験の有無

(n=124) (単一回答)

校務分掌担当経験	活用度の高い 教員 (59人)		活用度の低い 教員 (65人)	
	現在担当中	11人	19%	2人
担当経験あり	14人	24%	13人	20%
担当経験なし	34人	57%	50人	77%
合計	59人	100%	65人	100%

* p値=0.011

第3表 教員養成時の図書館学等の学習経験の有無

(n=123) (単一回答)

学習経験	活用度の高い 教員 (59人)		活用度の低い 教員 (64人)	
	学習経験あり	20人	34%	11人
学習経験なし	39人	66%	53人	83%
合計	59人	100%	64人	100%

* p値=0.033

B. 面接調査

面接調査の分析では、81のサブカテゴリーの中で多くの発言(9件以上)のあった27サブカテゴリーを抽出した。これらの内容を分析して同一内容のサブカテゴリーをまとめると、教員の実態で10項目、学校の実態で5項目、児童の実態で3項目

となった。児童の実態3項目は、児童が主体的・自発的な学び方をするようになった、児童に調べる力がついた、児童は読書・図書館が好きになる、であった。これらは、学校図書館活用度に影響を与えている要因ではなく学校図書館活用授業実施の結果として児童に現れることであるので、分析から除外し、15項目を抽出した。

IV. 結論

質問紙調査から両教員間に有意差のあった項目が15項目抽出された。一方、面接調査からは、言及の多かった項目が15項目抽出された。これらの30項目には内容的に重なる項目が見られた。そこで、同一内容の項目をまとめ、以下の17項目に整理した。これらの17項目は、活用度の高い教員と低い教員の意識と利用の実態が大きく異なる点であり、学校図書館活用度に影響を与えている要因であると考えられる。

- ①教員同士で学校図書館活用授業の成果を伝え合う
- ②指導に当たり効果的学習活動の展開を心がける
- ③学校図書館担当者と教員の協力体制を作る
- ④学校図書館活用授業の年間指導計画を立て教育課程に位置付ける
- ⑤系統的・計画的な利用指導を行う
- ⑥学校図書館活用に関する読書指導の工夫を行う(読み聞かせ、ブックトーク)
- ⑦学校図書館活用授業は、国語・総合・理科・社会・生活科で行いやすい
- ⑧学校図書館活用授業の実践例、児童の成

果物を参考にする

- ⑨児童の学びの個人差が大きく、児童一人ひとりの段階に応じた指導が必要なため、TT（チームティーチング）を行う
 - ⑩お奨めの本のリストを作り、読書指導計画を立てる
 - ⑪教育行政（国）の施策がある
 - ⑫図書館利用目的は、児童の楽しみ読書・児童の調べる学習・教材研究・児童の推薦本探し・国語の発展本探し・調べもの相談・教員自身の本探しの順となっている
 - ⑬学校図書館が学校の研究授業になる等教育活動の中核に位置付けられており、校長の学校図書館に対する意識が高い（校長の役割が大きい）
 - ⑭校内体制として、校務分掌に組織的な学校図書館部会があり、図書館担当経験がある
 - ⑮学習で使える蔵書構成である（資料の充実）
 - ⑯常駐の学校司書が配置されている
 - ⑰教育行政（地方）の支援・働きかけがある
- さらに、これらの要因を基に、教育課程の展開に寄与する学校図書館となるための7項目を以下に提案したい。[提案7]
- [提案7]
- ①学校図書館を教育活動の中核に位置付ける、校長の学校図書館に対する意識を高める
 - ②校内体制として校務分掌に組織的な学校図書館部会を作る

- ③学校図書館活用授業の年間指導計画を立て、教育課程に位置付ける
- ④教員同士で図書館活用授業の成果を教え合うようにする（成果を分かち合う）
- ⑤教員と学校図書館担当者（学校司書）の協力体制を作る
- ⑥教育行政（地方）に支援を働きかける（研修の充実、学校図書館ネットワーク・学校図書館支援センター構築等）
- ⑦教育行政（国）に施策を提案する（教員養成課程での「図書館科」「読書科」の導入、教科書に学校図書館活用のカリキュラム導入）

注・引用文献

- 1 村山功. 求められる学力と学校図書館. はるか★プラス. 2008, vol.12, p.110-111.
- 2 子どもの読書サポーターズ会議. これからの学校図書館の在り方について（報告）. 文部科学省, 2009.
- 3 文部科学省初等中等教育局. 学習・読書活動を推進する学校図書館の活用. 平成21年度予算額（案）主要事項（説明資料）
- 4 望月道浩. 小規模校における学校図書館の現状認識に関する一考察：沖縄県A郡a町における調査とともに. 学校図書館学研究. Vol.10, march, 2008, p.23-31. 2003, p.49-64.
- 5 中島正明. 教師の学校図書館に対する意識構造に関する研究. 児童教育研究. Vol.7, 1998, p.71-87.
- 6 佐藤郁哉. 質的データ分析法. 東京, 新曜社, 2008, p.115.